

質問の件名及び質問の要旨（質問時間）	答弁を求める者
<p>1 ヘルプマークの認知度向上へ（15分）</p> <p>外見からでは分からない障害や病気、難病のある方、また妊娠初期の方など、援助や配慮を必要としている人が、周囲の人に、配慮を必要としていることを知らせるために作成されたのが「ヘルプマーク」です。赤色の下地に白十字とハートのマークが特徴です。必要に応じて、マークの片面に付属のシールを貼ることができ、援助して欲しい情報を記載することもできます。東京都で2012年に初めて導入され、JIS規格への採用を経て、現在では全国の自治体で活用され、本市でも配付されています。バックなどに付けて利用されていることが多いようです。電車・バス内で見かけたら席を譲る、何か困っているようであれば声をかける等、思いやりのある行動が呼びかけられています。</p> <p>先日、数人の方からヘルプマークについて「どこでもらえるのか」「ヘルプマークを付けていても、優先席で譲ってもらえることがほとんど無い」などの話がありました。抱えている困難が外見上でわからないために、優先席を譲ってもらえないばかりか、優先席を使用していることを非難されることもあるようです。ヘルプマークの認知度向上へ、引き続き取組が求められていると考えます。埼玉県では、各分野で活躍されている方に「ヘルプマーク普及大使」として活動してもらおう取組も行っています。</p> <p>本市のヘルプマーク啓蒙普及への取組について、以下お伺いいたします。</p> <p>(1) 本市でのヘルプマークの配付状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 配付対象者、配付方法について イ 若葉駅前出張所など、配付場所の拡大を <p>(2) ヘルプマークの認知向上の取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 現状の取組 イ つるポッケやLINE公式アカウント、広報紙での定期的なプッシュ型の情報発信を 	市長

質問の件名及び質問の要旨（質問時間）	答弁を求める者
<p data-bbox="188 315 1129 353">2 心のサポーター養成事業について (15分)</p> <p data-bbox="178 423 1139 1285">厚生労働省は「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」の構築によって、精神障害の有無や程度にかかわらず、誰もが安心して自分らしく暮らすことができる地域づくりを目指し、2021年度から「心のサポーター養成事業（NIPPON COCORO ACTION）」を開始しています。精神疾患について正しい知識を持ち、家庭や地域、学校や職場など身近な人の相談に乗ったり、自治体の支援窓口を案内したりする役割を果たす「心のサポーター」を育成する事業です。座学と実習を交えた約2時間の研修プログラムを受けることで、心の不調の早期発見やサポートに役立つ、知識や方法を習得します。これまでに小学生から高齢者までを対象に、いくつかの自治体で研修が試行的に実施されており、埼玉県では川口市がモデル事業を行っています。厚労省は2024年度からの全国展開を予定しており、2033年度までに100万人のサポーターを養成することを目標に掲げています。各地域で心のサポーターが養成されていくことで、地域における普及啓発にも寄与するとともに、メンタルヘルス不調等の予防、さらには早期介入に繋がることが期待されています。</p> <p data-bbox="188 1308 1139 1447">現代は5人に1人が一生のうちに何らかの精神疾患になるという研究結果もあり「心のサポーター」の養成事業は重要と考えます。以下お伺いいたします。</p> <p data-bbox="201 1518 1082 1653">(1) 本市のメンタルヘルスへの取組について (2) 相談窓口「こころの健康相談」等の現状について (3) 「心のサポーター養成事業」への今後の取組について</p>	市長